

文化財センター通信

【かざぐるま】

風車

第 24 号

平成18年6月26日発行



紀州の歴史と文化の風

財団法人 和歌山県文化財センター



会場風景（メディア・アートホール）

ちほう 地宝のひびき — 第1回和歌山県 文化財調査報告会 —

6月3日

県内の調査担当者による
はじめての報告会を開催！

参加者約100名、
盛況のうちに無事終了しました！

報告会の概要

『地宝のひびき・第1回和歌山県文化財調査報告会』を、平成18年6月3日、県立図書館（きのくに志学館）の2階メディア・アートホールで開催しました。報告会当日は天候にも恵まれ、約100名の多くの方々に足を運んでいただきました。県内のみならず県外からも来場していただき、報告会は盛況のうちに終了することができました。

今回の報告会では、文化財について広く知ってもらおう、また、和歌山県下の文化財調査が現在どのような形で進んでいるのかということを知ってもらおうということで、当センターをはじめ、県教育委員会、各市町村教育委員会の調査担当者を中心として、和歌山県内での昨年度の成果について発表が行われました。そこでは、昨年度行われた各地域での発掘調査の概要や、各市町村教育委員会などが取り組んでいる教育普及活動についても報告されました。和歌山県下全域をテーマとした文化財調査報告会という取り組みは、今回が初めてでした。今後もこの報告



受付風景

— 第24号の主な内容 —

1. 「地宝のひびき
— 第1回和歌山県文化財
調査報告会 —」の概要
2. 今年度の発掘現場速報
3. 「第16回 文化財センター
速報展—紀州の歩み—」
開催のお知らせ

会は年1回のペースで開催していく予定です。また次の開催時にもお知らせしますので、どうぞお楽しみに。
(報告 北森さやか)

報告会 アンケート結果

今回の報告会で、参加者のみなさまから回答していただいたアンケートの結果を報告したいと思います。
来年度以降、報告会を続けていくにあたって、みなさまからの意見を真摯に受け止めて、よりわかりやすく、より充実した報告会を開催していきたいと思っています。

(*印=報告者コメント)

①参加者について

一般：90名 男性75名（83.3%）

女性15名（16.9%）

発表者：8名（センター職員除く）

センター職員：19名 合計117名

*予想以上の参加者数だったように思う。広報の仕方次第ではもう少し呼べるのではないか。男性の参加者が大半を占める。女性をもっと呼び込む工夫が必要か。

②参加者住所（一般90名中）

県内：80名（88.9%）

和歌山市46・海南市2・岩出市6・紀の川市7・橋本市2・かつらぎ町2

・高野町2・九度山町1・有田川町1

・湯浅町1・みなべ町1・田辺市2・那智勝浦町1・不明6

県外：9名（10.0%）、不明：1名

大阪府7名・奈良県2名

*全体90名のうち和歌山市の割合51.1%、県外では和歌山市以外からの参加者も多く、紀南地方からも参加してくれた。県外からの参加者が1割にもなった。広報をしっかりとすればもう少し参加者が増えると思う。

大阪府7名・奈良県2名

*全体90名のうち和歌山市の割合51.1%、県外では和歌山市以外からの参加者も多く、紀南地方からも参加してくれた。県外からの参加者が1割にもなった。広報をしっかりとすればもう少し参加者が増えると思う。

大阪府7名・奈良県2名

*全体90名のうち和歌山市の割合51.1%、県外では和歌山市以外からの参加者も多く、紀南地方からも参加してくれた。県外からの参加者が1割にもなった。広報をしっかりとすればもう少し参加者が増えると思う。

大阪府7名・奈良県2名

③参加者年齢（アンケートより）

男性 20歳以下0名 20歳代3名

30歳代3名 40歳代4名 50歳代6名

60歳代14名 70歳以上10名

女性 20歳以下0名 20歳代0名

30歳代0名 40歳代1名 50歳代2名

60歳代1名 70歳以上3名

*多いのは60代・70代以上の男性（全体の約半数）。女性並びに30代以下の参加は少ない。若い世代と女性に感心を持ってもらえる企画と広報が課題。

④アンケート集計（回答数47名）

◎文化財センターをご存じでしたか？

☞ 知っている：41名（87.2%）

☞ 知らない：3名（6.4%）

☞ 初めて知った：3名（6.4%）

◎センターの催しに参加したこと？

☞ ある：30名（66.7%）

☞ ない：15名（33.3%）

◎報告会の内容はいかがでしたか？

☞ よかった：25名（55.6%）

☞ ふつう：12名（26.7%）

☞ 難しかった：8名（17.7%）

◎今後このような企画に参加する？

☞ 参加する：38名（84.4%）

☞ わからない：7名（15.6%）

◎今回の催しをどこで知りました？

☞ 新聞・テレビ：24名

☞ ちらし：13名、☞ 知人：7名

☞ ホームページ：0名

*センターを知らない人や催しに参加していない人の参加は意義が大きい。内容は、難しい17.7%の意見を受け止める必要がある。広報は、ホームページの役割が低い。新聞等の情報で参加した人が多く、全紙掲載されるよう情報提供方法を再検討。ちらし配布は効果があるがより効率的な配布を要検討。

⑤みなさんの声（アンケートより）

☆よかった点

・県内各地の様子がまとめて聞けて良かった。発掘（時代か地域順で）、普及、整備など区分すれば、なお良かった。

・県内の調査（市町村）のとりくみをきくのはじめてでよかった。

・立派な資料集はありがたいです。

・スライドの説明がわかりやすかった。

・県下の自治体発掘担当者を一堂に会して報告させた計画は大ヒット。次年度へ続けてほしい。

☆難しかった点・悪かった点

・専門用語が多く素人には理解し難いと思った。一人の持ち時間が少な過ぎる。

・早口で聞き取れないことがあった。

・PR・広報もつとお願いします。

・1回目という事で発表者、主催者で準備不足の方もおられ聞き辛い事もあった。

・説明した内容が概ねどの時代のものか、西暦年表があればよく理解できるのに。

・全部スライドを使って発表願います。

・報告件数が多すぎます。

・質問の時間を取っていただきたい。

・年代順にまとめて報告してはどうですか。

（報告 仲原知之）

報告内容と報告者の顔



① 藤井保夫氏



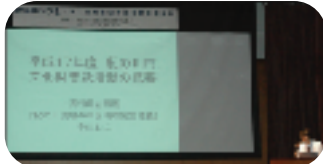
② 大岡康之氏



③ 鳥羽正剛氏



⑤ 藤藪勝則氏



④ 立岡和人氏 発表風景



⑥ 仲原知之氏 発表風景



⑧ 矢倉嘉人氏



⑦ 佐伯和也氏



⑩ 土屋孝司氏



⑨ 丹野 拓氏

- ① 和歌山県教育庁文化遺産課長 藤井保夫氏
講演「発掘調査の魅力」
- ② 橋本市教育委員会 大岡康之氏
「橋本市あさもよし歴史館施設概要」
- ③ 高野町教育委員会 鳥羽正剛氏
「金剛峯寺遺跡発掘調査概要
－大乗院跡駐車場整備事業に伴う発掘調査－」
- ④ 紀の川市教育委員会 立岡和人氏
「平成17年度紀の川市文化財普及活動の概要」
- ⑤ (財)和歌山市都市整備公社 藤藪勝則氏
「井辺遺跡の発掘調査」
- ⑥ (財)和歌山県文化財センター 仲原知之氏
「近世石積み堤防の発掘調査
－県指定史跡水軒堤防－」
- ⑦ (財)和歌山県文化財センター 佐伯和也氏
「有田川流域の弥生集落の発掘調査
－旧吉備中学校校庭遺跡－」
- ⑧ 海南市教育委員会 矢倉嘉人氏
「海南市における平成17年度調査
－岡村遺跡・亀川遺跡－」
- ⑨ 那智勝浦町教育委員会 土屋孝司氏
「本州最南端の前方後円墳 下里古墳整備事業」
- ⑩ 県立紀伊風土記の丘 丹野 拓氏
「岩橋千塚古墳群 大日山35号墳発掘調査」

『地宝のひびき開催』について(開会挨拶より)

文化財センター専務理事 松田長次郎

私たちが生まれ育った和歌山県には、多くの文化財が存在します。海・山に囲まれた自然とともに生きた人々の営みが、古来より地域の歴史を育んできたのです。私の出身地紀南地方の田辺市では、2月には春を告げる梅が可憐に咲き、春の訪れを告げます。田辺市には、縄文時代早期の土器が出土した高山寺貝塚があります。市街を一望する高山寺は、また南方熊楠の菩提寺です。天神崎は、田辺湾の北側に突き出た岬で、森・磯・海の三者が一体となつて一つの生態系を作っている美しい自然です。また、田辺市は、熊野三山への主要な参詣道である熊野古道の中辺路と大辺路の分岐点にあたり、「紀伊山地霊場と参詣道」として、世界遺産に登録されました。古来よりつづく自然環境や文化財は、守ろうとする意識に支えられてこそ守ることができると思います。さて、現在、埋蔵文化財行政を取り巻く環境は大きく変化しています。当センターとしては、豊富な考古資料の蓄積を踏まえて、和歌山県教育委員会の指導の下に、保存・活用まで一貫した事業を展開することが必要と考えています。発掘調査の精度をより高め、地域の埋蔵文化財を正確に把握して、既往の膨大な成果を整理・集約して、遺跡データや地域史等の充実を図ることが保存・活用を行うことの基本であると思います。総論として、市町教育委員会と連携して、平成17年度に実施した和歌山県下の発掘調査成果を調査担当者が報告する「地宝のひびき」を開催します。各論では、各市町と共催で普及事業を進めます。保存活用の視点としては、埋蔵文化財以外の文化財の、時代や種別の特性を考慮して総合的な保存・活用を図り、歴史が見え、感じられる町づくりのために、文化財の担い手である地域住民との連携及び参加、次代を担う子供たちが学ぶ学校教育との連携を図ることが何よりも肝心なことと考えております。

当センターは、埋蔵文化財課と共に文化財建造物を扱う文化財建造物課もあります。その役割とは、国宝・重要文化財などの建造物の保存修理を行うものです。和歌山県内の多くの建造物解体修理を実施し、その蓄積があります。今後、埋蔵文化財課と文化財建造物課の蓄積を県民の皆様にかけていただくための普及事業を実施していきます。今後ともご指導ください。

京奈和自動車道（紀北東道路）関連

ちよのまら みようじ にしいがり
丁ノ町・妙寺遺跡、西飯降Ⅱ遺跡

（かつらぎ町）

この二つの遺跡は、隣り合って、紀ノ川の北岸、和泉山脈の山裾に近い段丘上に立地しています。6月に入って本格的な作業が始まりました。調査前には、果樹園や水田となっていました。今はまず、表土層と新しい時期の耕作土層を機械で掘り下げ、古代く近世（今後の調査で詳しい時期を特定していきます）の水田を検出しています。この水田は条里型地割と呼ばれる大規模な区画に基づいていて、組織的な大規模開発がなされたことを示しています。この遺跡がある近辺の田園は古い時代の景観をよく残しており、貴重な歴史的資料といえるものです。



手前の平らな部分が水田の跡

発掘現場速報

今年度実施している発掘調査の速報です

旧吉備中学校校庭遺跡（第二次）

（有田川町）

昨年度に続き、5月から公共下水処理施設建設に伴う発掘調査を実施しています。昨年度の調査地点から約100m東方に位置しています。合計約3千㎡を東西二分割して調査を進めて、現在は前半部分の西側の調査に取り掛かったところです。現在まで弥生時代後期の溝数条や円形竪穴住居2棟等の他、古代・中世の遺構・遺物が見つかりつつある状況です。特に弥生時代後期の溝は、昨年度の調査や試掘確認調査から、集落の回りを囲む環濠と考えられます。この内外の状況を調査により明らかにすることができれば、弥生時代後期の集落の様子がある程度判つてくるのではないかと期待しています。



遺構検出状況

第16回和歌山県文化財センター速報展 紀州の歩み

日時：平成18年6月26日（月）～9月29日（金）

開館：10:00～16:30（土日祝は閉館）／入館料は無料

場所：（財）和歌山県文化財センター調査事務所「きのくに歴史探訪館」（海南市築地1-7（TEL073-483-4277））

展示：平成17年度に発掘調査・遺物整理作業・建造物修理事業を実施した遺物などを展示。

【主な展示】

柏原遺跡（橋本市）：方形周溝墓出土弥生土器、太田・黒田遺跡（和歌山市）：弥生土器・石器
野田地区遺跡（有田川町）：陶質土器、旧吉備中学校校庭遺跡（有田川町）：朱の付いた標石
水軒堤防（和歌山市）：パネル展示

福勝寺（海南市）：中世～近代瓦、旧中筋家住宅（和歌山市）：金具、長樂寺（有田川町）：組物

【展示解説】第1回－6月26日（月）13:00～／第2回－7月23日（日）13:00～

風車 第24号

平成18年6月26日 発行

（財）和歌山県文化財センター

〒640-8404

和歌山市湊571-1

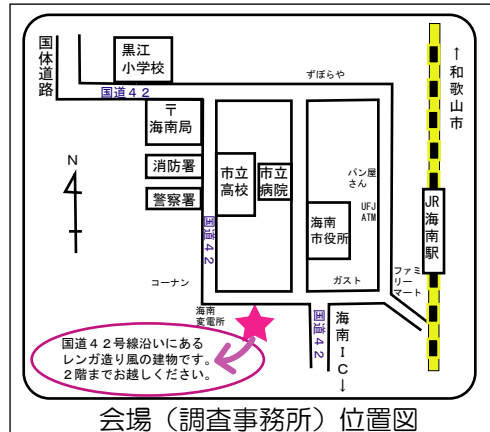
Tel：073（433）3843

Fax：073（425）4595

e-mail：maizou-1@wabunse.or.jp

URL http://www.wabunse.or.jp

《編集後記》 調査事務所ではありますが、出土した遺物などを展示していますので、ぜひ足を運び下さい。（仲原）



会場（調査事務所）位置図